

施設名	展覧会・イベント	日時・場所	費用・定員・申し込み
穂高陶芸会館 Tel82-6750	穂高陶芸クラブ プレゼントしたいマグカップ展	11月3日(金)～5日(日) 9:00～17:00	無料
	秋の親子陶芸教室	11月11日(土) ①9:30～11:30 ②13:30～15:30	費大人1040円、中学生以下830円 定各7組(先着順) 10月28日(土)から電話で
貞享義民記念館 Tel77-7550	くらふとのわ・笑・和展 木村昌子さん	11月3日(金)～12日(日) 9:00～17:00	無料(常設展は有料) ワークショップの申込は前日までに 講師へ電話で(080-6939-6313)
	フォトサロンながや写真展	11月15日(金)～12月1日(日)	無料(常設展は有料)
鐘の鳴る丘集会所 Tel71-2463	ダンスパフォーマンス 「Dancer in the 鐘の鳴る丘集会所」	11月11日(土)・12日(日) 13:00～17:00	無料 他(出演者)...1(アマリイチ)齊藤綾子さん、益田さちさん
豊科郷土博物館 Tel72-5672	絵手紙展	11月11日(土)～26日(日) 9:00～17:00 (最終日は16:00まで)	要入館料
安曇野市文書館 Tel71-5123	在方から見た松本大変 ～松本藩主交代劇～	11月19日(日) 13:30～15:00 堀金公民館講堂	無料 定100人(先着順) 10月23日(月)から電話で

■休館日、開館時間などは各施設へお問合せください

あづみの新進音楽家コンサート2023



「第12回あづみの新進音楽家公開オーディション」一般の部において選出されたクラシック音楽家4組によるコンサートを開催します。

(出演者)

- ピアノ・・・滝沢友理恵さん
- ピアノデュオ・・・永井 知可子さん、宮下 絵美さん
- サクソ・・・飯田 有梨さん
- フルート四重奏・・・高嶋 青海さん、井口 花菜さん、鈴木 雄也さん、工藤 彩音さん

12月9日(土)13:30～15:50
 穂高交流学習センター「みらい」多目的交流ホール
 費500円 定200人(先着順)
 11月1日(水)から穂高交流学習センターでチケット販売開始
 穂高交流学習センター「みらい」 Tel81-3111

穂高陶芸会館
秋のお茶会

陶芸会館講師が制作した抹茶茶碗を使用して、裏千家西村社中によるお点前を楽しみます。

10月22日(日)12:30～15:30
 無料
 定60人(先着順)
 他当日は陶芸クラブ員の作品を展示します。
 穂高陶芸会館 Tel82-6750

おしゅん～加助騒動と少女～
マリンバの音色にのせて

森のおうちの「お話の会」が朗読劇「おしゅん」を制作し、朗読会を始め10年。今年が最終公演です。

11月23日(木)(開場は30分前)
 ①11:00～ ②14:00～
 穂高交流学習センター2階シアター夢道場
 費310円
 定各30人(先着順)
 10月24日(火)から電話で
 穂高交流学習センター Tel77-7550

貞享義民記念館 臨地講座
義民旧跡巡り(松本編)

松本市街地周辺の貞享騒動や水野氏にゆかりのある史跡や仏閣、松本市新市立博物館などを巡ります。

10月29日(日)8:30～16:30
 穂高交流学習センター
 後藤芳孝さん(信濃史学会会長)
 費1,500円
 定20人(先着順)
 10月22日(日)から電話で
 穂高交流学習センター Tel77-7550

2023
ミニミュージアム
ギャラリートークリレー



開催期間
10月21日(土)▶11月5日(日)

豊科近代美術館、田淵行男記念館、飯沼飛行士記念館、豊科郷土博物館、穂高郷土資料館、高橋節郎記念美術館、安曇野市天蚕センター、貞享義民記念館、臼井吉見文学館、井口喜源治記念館、碌山美術館、絵本美術館&コテージ森のおうち、安曇野山岳美術館、征矢野久水彩館、安曇野ちひろ美術館

不要
 各施設ごと開催日時が異なります。
 文化課 Tel 71-2463



市 HP



第18回

安曇野スタイル

11月3日(金)▶11月5日(日)



ガイドブックを片手に安曇野のアート、クラフト、食、暮らし、自然、そして出展者と交流する周遊観光型のイベントです。市の施設でも体験講座が行われますので遊びに来てください。それぞれの詳細は問い合わせください。

高橋節郎記念美術館
 Tel 81-3030
 ・かんたん沈金講座
 安曇野市天蚕センター
 Tel 83-3835
 ・コースター織り体験
 ・コサージュづくり体験



HP



Facebook



Instagram



微妙橋と地藏堂

栗尾山満願寺(穂高牧)は江戸時代には高野山龍光院末、現在は真言宗豊山派に属する寺院です。寺伝によると、神龜年間(725頃)、観音池から出現した一寸八分の千手観音像を、堂宇を建てて安置したことが始まりとされています。また、千手観音の霊験により八面大王を退治した坂上田村麻呂が開創したという言い伝えもあります。

満願寺は古くから精霊が集まる霊山とされ、新盆の精霊を迎えに行く「ホトケムカエ」という習俗が行われています。また参道入口に流れる川は、あの世とこの世を隔てる「三途の川」に見立てられます。その川にかかる「微妙橋」、別名「お経橋」は、橋裏には陀羅尼が書かれており、善男善女が極楽浄土へ渡る橋とされているようです。そして橋を渡った先には、死後も救いの手を差し伸べてくれるという地藏菩薩が祀られています。満願寺周辺には、あの世にまつわる概念的な世界観が現実として落とし込まれており、他界観の変遷を探る上で大変興味深い場所です。

コラム 市誌編さんだより 第16回
満願寺と他界観

民俗部会 市誌編さん専門調査会
 専門調査員 武井成美